

チームみらい

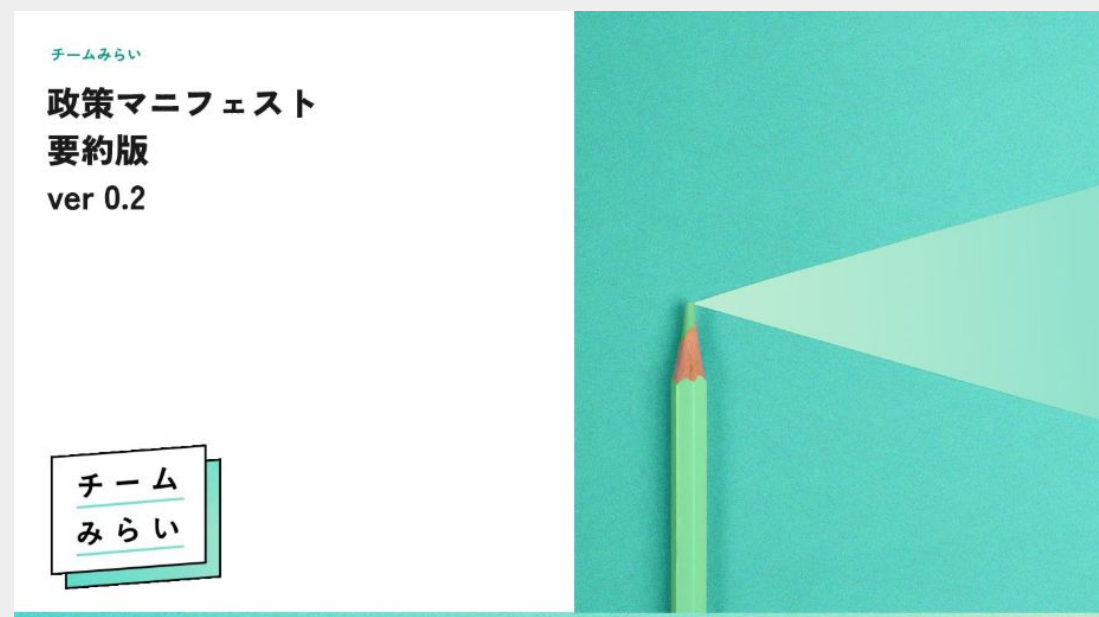
せいさく
政策マニフェスト
べつかいせつばん
テーマ別解説版
ふくし へん
福祉編

チー
ム
み
ら
い

ほんしりょう
本資料はチームみらいのマニフェストを政策テーマごとにまとめたものです。
がいよう
概要をまとめた「ようやくばん
要約版」、マニフェスト全体を「ぜんたい
ぜんたいらん
ご覧いただける「しょうさいばん
詳細版」も
ございますので、ぜひあ
あらん
合わせてご覧ください。

ようやくばん
要約版

ようやくばん
【要約版】

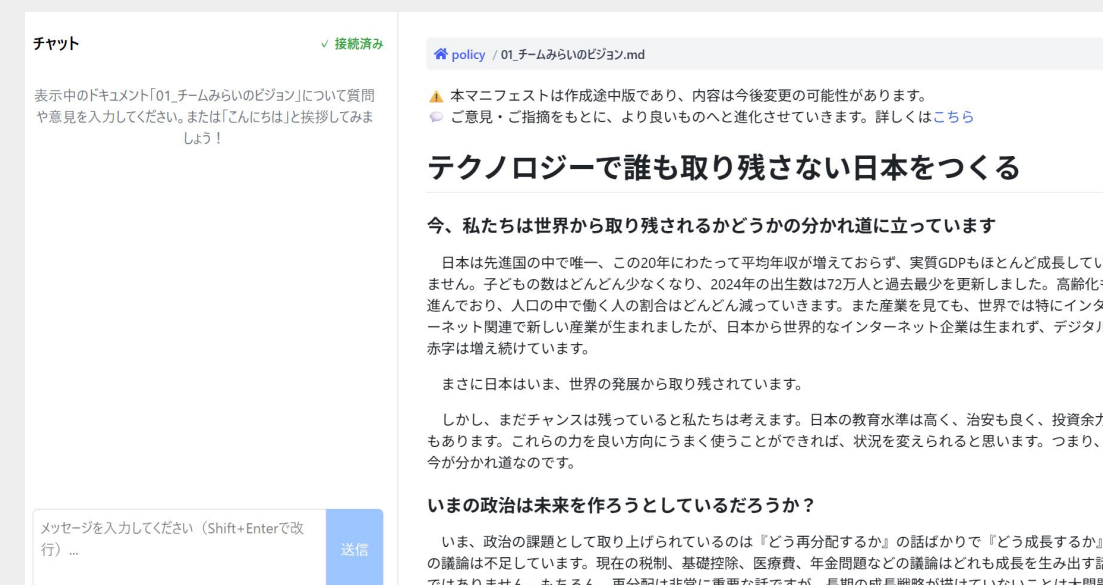


<https://speakerdeck.com/teammirai/timumiraimanihuesuto-yao-yue-ban-v0-dot-2>

20ページほどのスライドでマニフェストの
がいよう
概要をらん
ご覧いただけるものです

しょうさいばん
詳細版

しょうさいばん
【詳細版】



<https://policy.team-mir.ai/>

しつもん
A I に質問をしたり、A I とおしゃべりをし
ないようていあん
ながら内容提案をしたりすることがかのう
可能です

チー
ム
みらい

マニフェスト テーマ別解説版

べつかいせつばん

チームみらいの^{せいさく}政策の^{はしら}柱

1. ^{しんさんぎょういくせい}新産業育成による^{しょとくばいぞう}所得倍増
2. ^{にっぽん}日本を^{せかいいち}世界一の「^{こそだ}子育て^{せんしんこく}先進国」へ
3. ^{ぜい}いびつな^{しゃかいほしょう}税・^{せいど}社会保障制度を^{みらい}未来志向で^{さいこうちく}再構築
4. ^{りっぽう}立法の「^み見える^か化」
5. 「^{せいじ}政治とカネ」問題に^{もんだい}終止符^{しゅうしふ}を^う打つ
6. ^{だれ}誰も^と取りこぼさない^{しゃかい}社会福祉^{ふくし}へ

チームみらいのマニフェストを構成する政策テーマ

せいじ ぎょうせい 政治と行政

デジタル民主主義
みんしゅ しゅぎ

くらしと行政
ぎょうせい

けいざいざいせい
経済財政

せいかつ しゃかいほしょう 生活と社会保障

きょういく
教育

こそだ
子育て

いりょう
医療

ほんしりょう
本資料

ふくし
福祉

ぎじゅつ さんぎょう 技術と産業

かがく ぎじゅつ
科学技術

さんぎょう
産業

エネルギー

チーム
みらい

せいさく
政策テーマ
ふくし
福祉

チームみらいは、誰も取り残さない社会福祉を実現します

げんじょう かだい 現状課題

- ・既存の福祉の制度はたどり着くのが容易ではなく、申請にも手間がかかります
- ・障害児（者）や家族を支援する制度にも、所得制限や、「18歳の壁」「親なき後問題」など多くの壁が存在します
- ・福祉・介護従事者は足りておらず、業務負担の大きさや賃金の低さも課題です

チームみらいは

- ・テクノロジーを活用しながら、必要な支援の情報を届け、手続きが簡単にできるようにします
- ・経済的・制度的な壁を取りのぞき、障害児（者）と家族が安心して暮らせる社会を追求します
- ・介護テクノロジーへの投資や報酬体系の見直しで、福祉・介護従事者の生活の質を向上させます

ふくし しえん ひつよう ひと てきせつ じょうほう せいど
福祉の支援が必要な人が適切な情報・制度にアクセスし、
しえん う かんたん
支援を受けることは簡単ではない

ひつよう しえん じょうほう み
必要な支援の情報をみつけるのは
かんたん
簡単ではなく…

こ けんしん はったつしょうがい うたが い
子どもの健診で発達障害の疑いがあると言わ
れたが、その後どこに相談すればよいか分
わ かんたん
からず不安だった

こ しょうがい しんだん う とき とくべつ じどう ふ
子どもが障害の診断を受けた時は特別児童扶
養 しょうがい しん ねん ねん ねん ねん ねん
手当をもらえることを知らず、1年後に療
育 しょうがい しん ねん ねん ねん ねん ねん
手帳を取得したときにようやくその存在を
し
知った

しんせい てつづ ふくざつ
…申請の手続きも複雑

おや かいご さいちゅう かいご にんてい しゅとく すす
親の介護の最中に介護認定の取得を勧められ
た。けれど、不在中の世話を頼める人がおら
ず、役所に手続きに行くことができなかった

しょうがいねんきん しんせい じちたい びょういん なん
障害年金を申請するために自治体や病院を何
ど まわ おお しょうい ようい かか
度も回って多くの書類を用意したにも関わら
ず、結局、支給の資格を得られなかった

きそん しえん せいど しょうとくせいげん はじ さまざま かべ さんざい
既存の支援制度には所得制限を始めとした様々な壁が存在

げんじょう しえん せいど しょうとくせいげん
現状の支援の制度には所得制限があり…

しきゅう たいしょうがい ふたん かてい
…支給の対象外となつて負担をかかえる家庭
がおお さんざい
が多く存在

とくべつ じどう ふよう てあて¹ れい
特別児童扶養手当の例

しきゅうげつがく
支給月額
しょうとくせいげん
所得制限
(ふよう ふたり ばあい
扶養二人の場合)

きゅう (じゅうど) 56,800円

きゅう (ちゅうど) 37,830円

やく しょうとくせいげん
約536万円以下
(しゅうにゅうやく まんえん いか
＝収入約728万円以下)

こ せたい へいきんねんしゅう やく まんえん
子どもがいる世帯の平均年収(約813万円)
しょうとくせいげん たいしょう
でも所得制限の対象に

しょうとくせいげん すこ こ しきゅう えん
所得制限を少しでも超えると支給が0円にな
ってしまふ せいど せつけい
制度設計

しょうとくせいげん てあて しょうがい ふくし
所得制限によって手当がもらえない、障害福祉サービスの
じこ ふたん けっか しょうとく ぎゃくてん げんしょう お
自己負担がかかる結果、「所得の逆転」現象も起きている

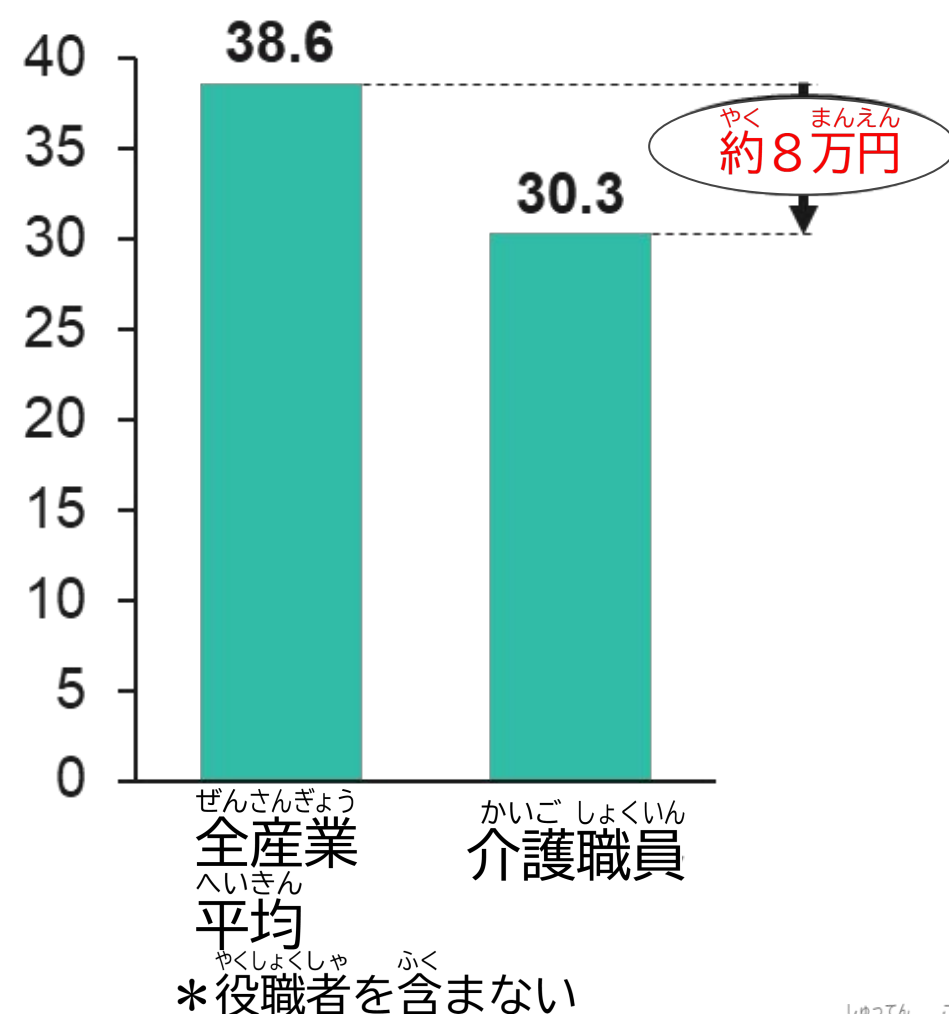
1. 20歳未満で精神または身体に障害を有する児童を家庭で監護・養育している父母等に支給； 2. 非課税所得以外の所得等から医療費控除や障害者控除、寡婦控除等の額を差し引いた所得額、「受給資格者本人」の制限額を記載。受給資格者の配偶者及び扶養義務者の場合は、所得額約675万円(収入：約880万円)

出典：厚生労働省「特別児童扶養手当について」；
厚生労働省「令和5年 国民生活基礎調査の概況」

ふくし かいご じゅうじしゃ ひとで ぶそく しんこく こんてい
福祉・介護従事者の人手不足が深刻で、根底には
ぎょうむ ふたん おお ちんぎん ひく かだい
業務負担の大きさや賃金の低さが課題としてある

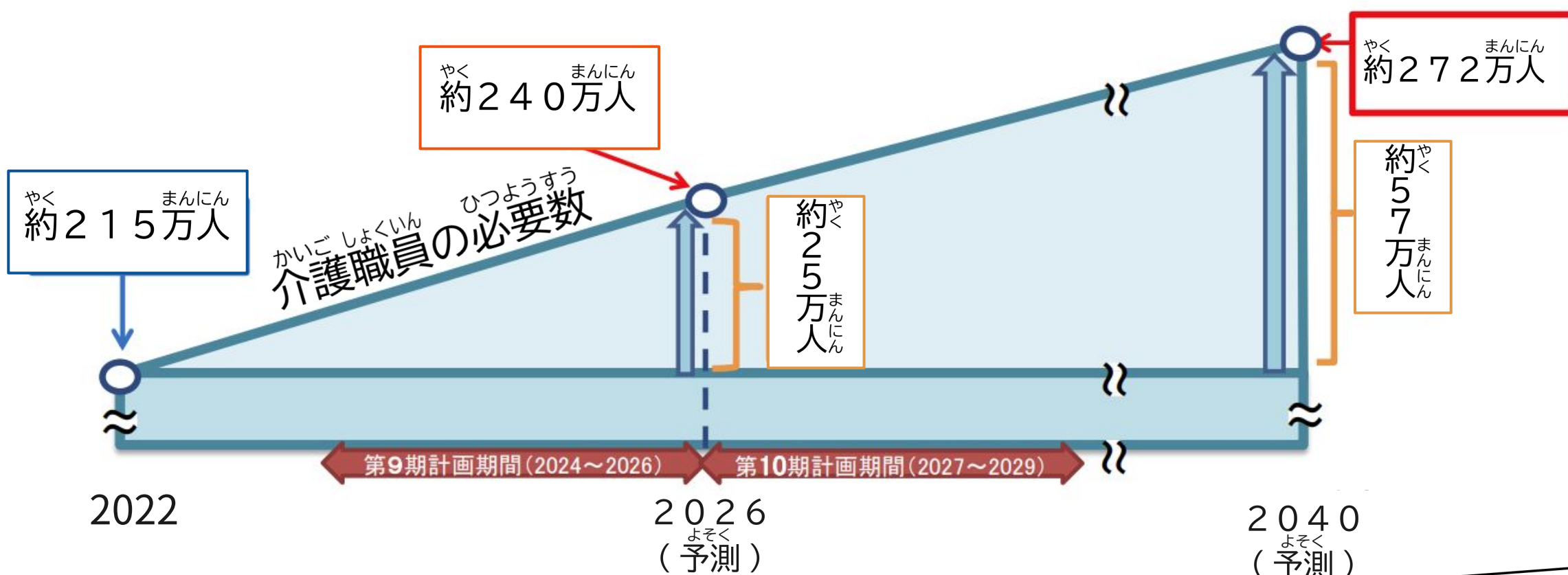
ぎょうかい ちんぎん へいきん ひく
業界の賃金は平均よりも低く、
ぎょうむ ふたん おお
業務の負担も大きい

しょうよ こ きゅうよ まんえん
(賞与込み給与、万円)



かいご しょくいん ひつようすう よそく もと
介護職員の必要数の予測に基づくと、
ねん まんにん ふそく
2040年には57万人が不足するおそれ

かいご しょくいん ひつようすう よそく
介護職員の必要数の予測



しゅってん こうせいろうどうしやう しや ほ しん かいご きゅうふ ひ ぶんか かい だい 2 4 5 かい さんこうしりやう かいご しょくいん しょうぐ
出典：厚生労働省「社保審 介護給付費分科会 第245回 参考資料：介護職員の処遇
改善について」

こうせいろうどうしやう だい かいしやかいほうしやう しんぎ かい ふくし ぶかい ふくし じんざい かくほ せんもん いいん かい
厚生労働省「第1回社会保障審議会福祉部会福祉人材確保専門委員会
資料5 介護人材確保の現場について」

チームみらいは、^{だれ}誰も^{とりのこ}取り残さない^{しゃかい ふくし}社会福祉^{じつげん}を実現します

テクノロジーの
活用で、誰も
取り残さない
福祉アクセスを

障害児（者）と
その家族が
もっと安心して
暮らせる社会へ

介護
テクノロジーの
活用で、
介護する人も
される人も
より良い生活を

- ・ 情報や支援へのアクセスの改善
- ・ 障害者雇用の拡充
- ・ 福祉従事者の処遇の改善

- ・ 多様な声の政策への反映
- ・ 福祉の「壁」の撤廃
- ・ 障害児と家族の生活を守る支援

- ・ 介護テクノロジーの導入への投資と業務効率化
- ・ 介護従事者の処遇の改善

福祉：政策詳細 誰も取り残さない福祉アクセスの実現

テクノロジーの力を活用し、誰もが必要な情報や支援に
アクセスできる社会を実現します

1 情報や支援への
アクセスの改善

テクノロジーの活用で：
・支援が必要な人に適切な情報が
届く仕組みを
・障害年金等の申請・認定
プロセスを効率化
福祉制度の説明・申請における
表現工夫を制度化

2 障害者雇用の拡充

障害者も企業も無理なく
続けられる雇用支援を
例：業務の理解を助ける支援ツ
ールの開発、受け入れ企業の担当者
向けのA I コーチ機能 等

3 福祉・介護事業者の
処遇の改善

物価上昇に応じた基本報酬の改定
やさなる賃上げ方策の検討
福祉や介護従事者の業務の負担を
軽減
※現場で必要とされる・使いやすい
テクノロジー活用を推進

ふくし せいさくしやうさい だれ どのこ せいかい
福祉：政策詳細 誰も取り残さない福祉アクセスの実現①

しえん ひつよう ひと てきせつ ふくし
テクノロジーにより、支援が必要な人が適切な福祉サービスを
し
知りやすく、アクセスしやすくします

ふくし しんせい てつづ
福祉申請手続きの
オンライン化

しえん ひつよう ひと
支援が必要な人への
プッシュ型支援

しょうがい ふくし
障害福祉
そうだん せっち
相談ポータルを設置

しよめん たいめん てつづ ぎむ
書面・対面の手続きを義務
とする規定の更なる見直しを実施

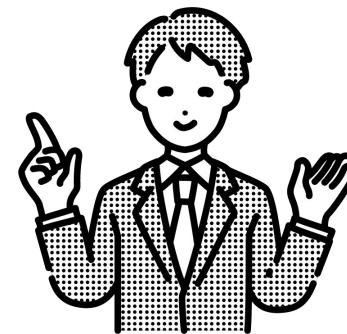
とうろくじょうほう もと たいしょう しえん
登録情報に基づき対象となる支援
せいど じどう つうち
制度をアプリやメールで自動通知

しょうがいしゃ かぞく ぎもん
障害者や家族のあらゆる疑問や
なや そうだん かのう
悩みをAIに相談可能なポータル
をせっち
を設置

せいかつ ほご とくべつ じどう ふよう てあて
生活保護や特別児童扶養手当
かん てつづ
などに関する手続きもスマホ
かのう
から可能に

ふくし さが りかい
福祉サービスを「探す・理解する
しんせい てま ふよう
・申請する」手間を不要に

そうだんないよう ふ ひつよう おう
相談内容を踏まえて必要に応じて
ぎょうせい せんもん か れんけい じんそく
行政や専門家へ連携し、迅速・
かくじつ
確実にサポート



チー
ム
みらい

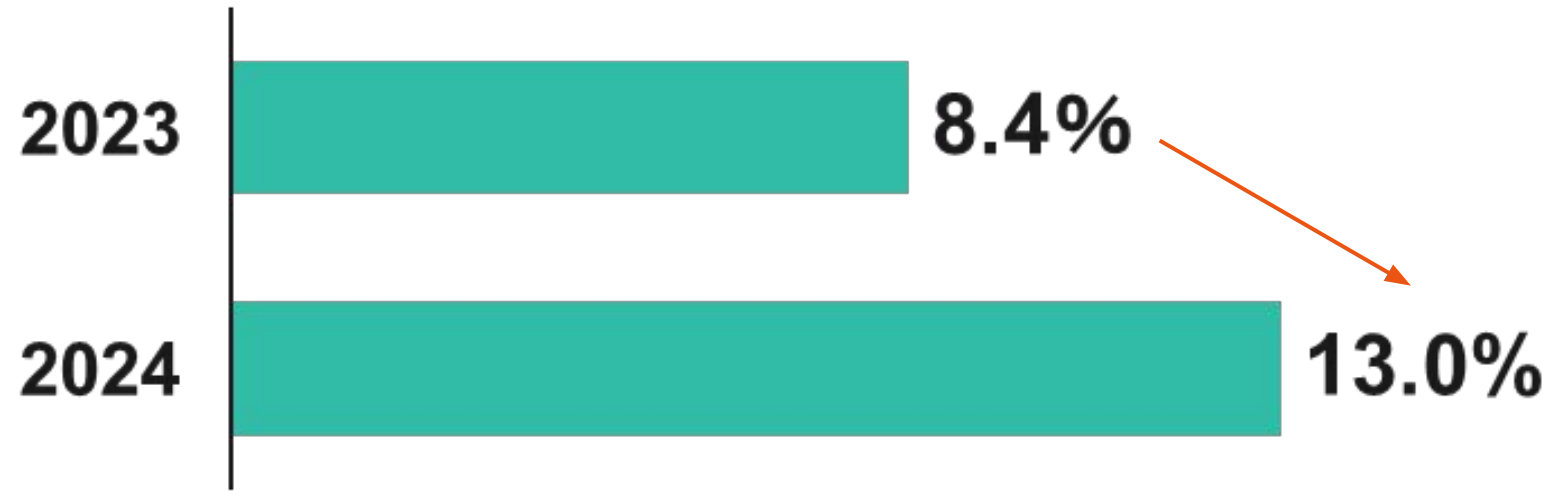
福祉：政策詳細 誰も取り残さない福祉アクセスの実現②

テクノロジーの活用により、障害年金の支給判定をより透明性と公平性のあるものにします

現状の課題

障害年金の認定基準には曖昧さが残り、最近では不支給率の増加が問題に

障害年金の不支給率（全体）



チームみらいの考える対策

障害年金の支給判定プロセスをデジタル・AIで効率化し、透明性と公平性のある判定へ

- ・審査の標準化を推進
- ・認定結果や不支給事案の分析を継続的に
行い、制度運用の課題や改善点を可視化

- 「初診日」要件の見直し
- 生活実態に即した判定基準に改定、等

出典：厚生労働省「令和6年度の障害年金の認定状況についての調査報告書」

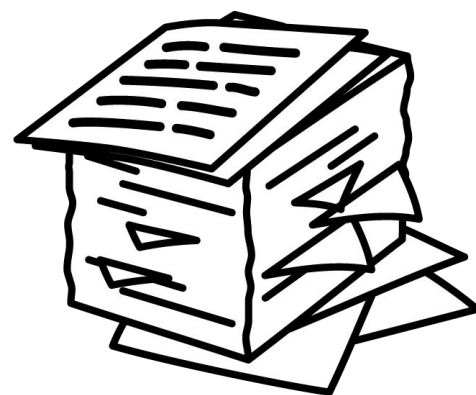


切れ目のない福祉支援を提供する、デジタル福祉パスポートを実現します

現状の課題

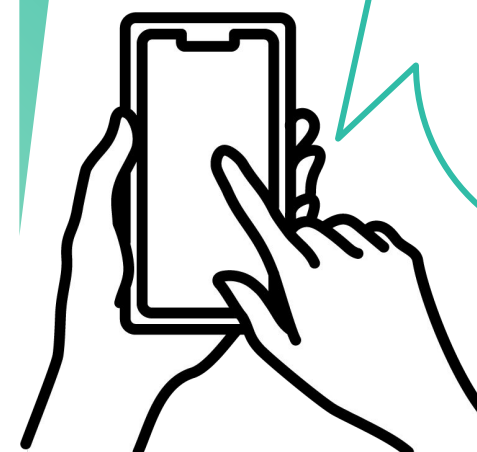
福祉サービスを受けるために複数の申請や証明書の提出が求められ、利用者と家族にとって大きな負担

役所や医療機関、療育施設など支援機関の間での情報連携も紙が主体で時間がかかる



デジタル福祉パスポートでできること

- 障害者手帳とマイナンバーを連携することで、スマホのアプリで福祉サービスの申請から利用をまとめて管理
- ・サービスの支給申請をオンラインで可能に
 - ・各福祉施設での支援情報や福祉サービスの利用スケジュールもアプリで管理
 - ・受給者証の更新手続きもプッシュ通知に基づいてアプリ内で完結



福祉：政策詳細 障害児（者）とその家族がもっと安心して暮らせる社会へ

障害児（者）とその家族をはじめ、すべての子どもが安心して暮らせる社会を実現します

- 1

多様な声の
政策の反映

福祉を必要とする当事者や
支援者の多様な声を、
AIの力を活用して集約し、
政策や制度の改善に反映
- 2

福祉の「壁」
の撤廃

所得制限の「壁」や障害児
の「18歳の壁」、「親亡き後
問題」など、様々な壁への
対応策を検討・推進
- 3

障害児（者）と
家族の生活を
守る支援

保護者の負担を軽減し、
子どもたち一人ひとりの
可能性を最大限に引き出す
支援体制を、テクノロジー
の力を最大限活用して構築
- 4

セーフティ
ネットの強化

ヤングケアラーや貧困、
児童虐待など、困難な状況
にある子どものセーフティ
ネットを強化

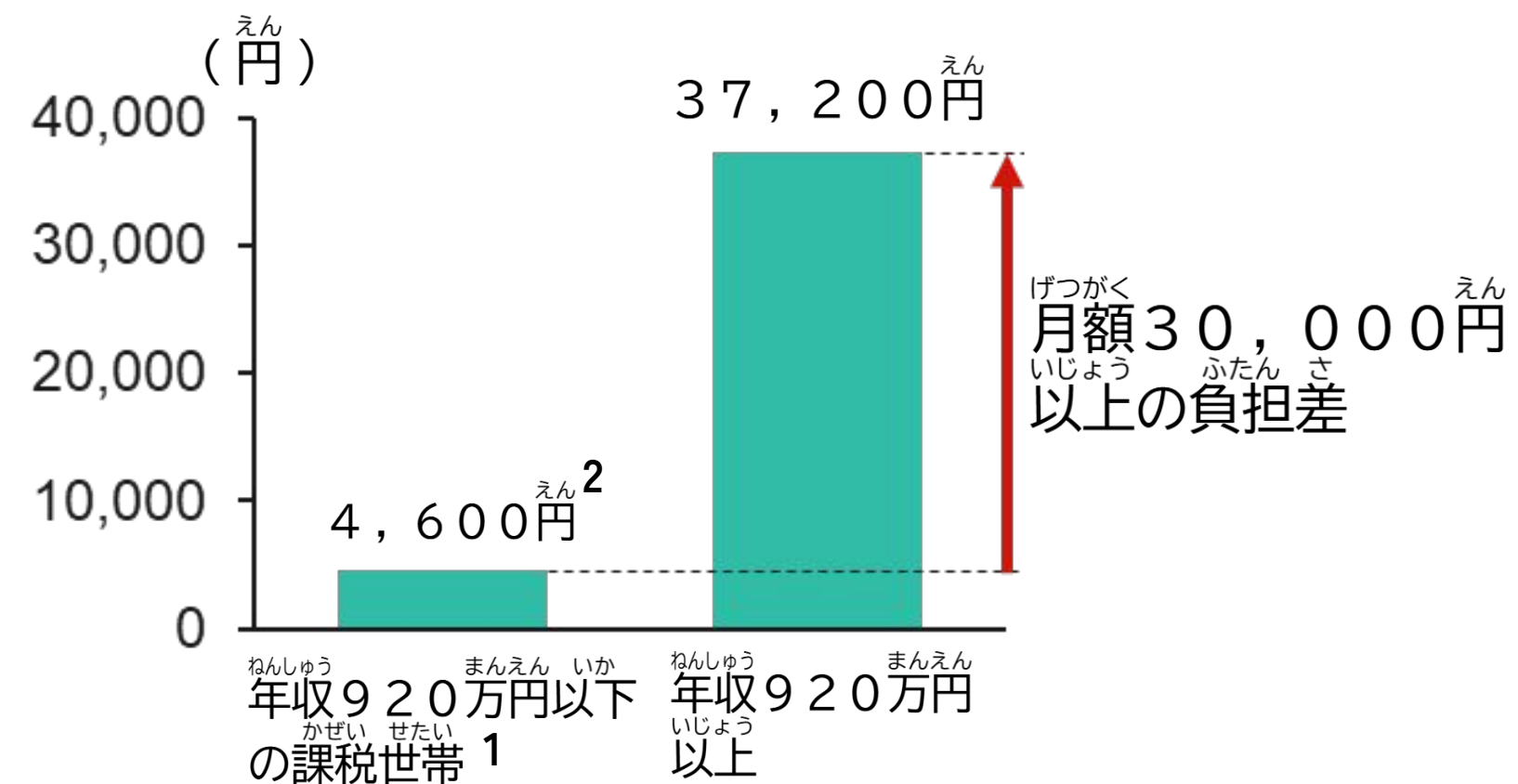
福祉：政策詳細 福祉の「壁」の撤廃

障害児福祉に関する所得制限の撤廃・経済負担の軽減を進めます

現状の課題

障害児福祉の制度があっても所得制限により家庭の負担の差が大きい

放課後等デイサービスの利用負担上限月額額の例



1. 「一般1」区分（市町村民税課税世帯（所得割28万円未満））を指し、該当する収入の目安が920万円； 2. 通所施設、ホームヘルプ利用の場合の額

出典：厚生労働省「障害者福祉：障害児の利用者負担」

チームみらいの考える対策

- 障害児支援に設けられた所得制限を撤廃
- ・ 特別児童扶養手当、障害児福祉手当 など
 - ・ 放課後等デイサービスの利用料 など



福祉：政策詳細 福祉の「壁」の撤廃

障害児の「18歳の壁」対策により保護者の就労継続を支援します

「18歳の壁」問題

障害のある子が18歳で特別支援学校を卒業すると、夕方を過ごす居場所がなくなり、帰宅時間が早くなる

子どもの卒業をきっかけに、保護者の就労の継続が困難に

チームみらいの考える対策

障害のある方が夕方以降も安心して過ごせる居場所を新たに検討

・生活介護や就労継続支援などのサービス提供時間を延長するための運営費の助成

・保護者の送迎負担を減らす移動支援の充実

福祉：政策詳細 障害児（者）と家族の生活を守る支援

発達障害のある子どもの初診予約が取りにくい課題を解決します

現状の課題

発達障害の可能性を指摘された
子どもが児童精神科を受診
したくても初診予約がとれず、
受診に何ヶ月もかかることも

発達障害の専門家が不足して
いることが一因

チームみらいの考える対策

早期に診察・サポートが受けられる仕組みの構築

- ・ AI を活用し、重症度・緊急度に応じて早期受診が
必要な人が優先的に専門医を受診できる仕組みを構築
- ・ 専門医の受診に時間がかかる場合には、オンライン
アセスメント結果を踏まえたサポートを提供

発達障害に対応可能な専門家の拡充・制度改革

- ・ 医療者の教育・啓発や制度設計により、専門医と
連携しながら地域の身近な医師でも対応を可能に
- ・ 児童精神科の報酬体系の見直し

チーム
みらい

福祉：政策詳細 障害児（者）と家族の生活を守る支援

障害者の「親なき後」を見据えた支援を推進します

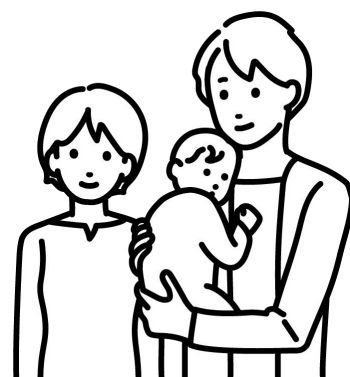
障害者が安心して
暮らせる環境の整備

入居可能な施設の拡充

きょうだい児に
対する支援

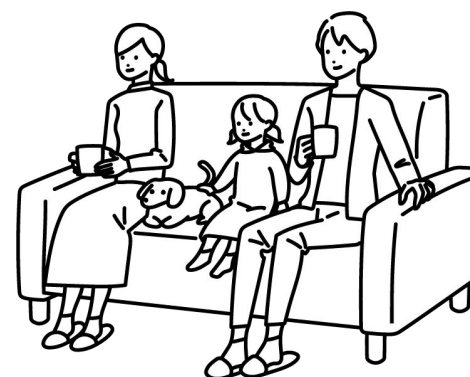
既存の支援制度を強化しながら、
障害者が安心して暮らせる環境を
整備

- ・成年後見人制度の利用における
課題解決・活用促進
- ・ピアサポートの活用支援 など



グループホームや障害者支援施設
の拡充

- ・必要な財源と人材確保の策を
含めて検討を推進



家族だけが支援を担うことを前提
としない仕組みに転換

きょうだい児の心理的なケアや
学びの場の提供、将来設計の支援
を推進



福祉：政策詳細 障害児（者）と家族の生活を守る支援／セーフティネットの強化

育児のセーフティネットを強化し、誰もが安心して暮らせる社会をつ作っていきます

障害児と家族の生活を守る支援

福祉の情報や手続きをまとめて
管理できるプラットフォーム

A Iで個々に最適化された
学びとケア

遠隔医療・療育の推進

レスパイトケア・
専門的保育の拡充

すべての子どもが安心して暮らす
ためのセーフティネットの強化

ヤングケアラーの早期発見

児童虐待の検知A Iの再構築

子どもの貧困への対策

ひとり親への養育費
不払い問題への対応

福祉：政策詳細__介護テクノロジーの活用と生活の質の改善

介護の領域においてもテクノロジーを活用しながら、
介護する人・される人の生活の質の向上を目指します

介護従事者の
処遇の改善

物価上昇に応じた基本報酬の改定、加算の
拡充を推進

テクノロジー活用による生産性向上分を
処遇の改善に繋げる仕組みを構築

現場に必要とされるテクノロジーを丁寧に
見極めた上、介護テクノロジーの導入や
介護記録のデジタル化を推進
・例：見守りシステム、介護ロボット
・テクノロジー導入支援のための研修
プログラムを整備

介護テクノロジーの
活用により、介護される人の
生活の質の向上にも
貢献します

介護従事者の
業務負担の軽減

福祉：政策実行のステップ

まずはテクノロジーの活用で福祉の情報や支援へのアクセスを改善し、
制度・仕組みの面からも、福祉がより多くの人に届くようにしていきます

ステップ1

デジタル時代の
当たり前をやりきる

情報・支援へのアクセス

福祉・介護従事者の処遇

テクノロジー
活用で福祉
アクセスを改善

ステップ2

変化に対応できる、
しなやかな仕組みづくり

障害者雇用の充実

障害児（者）と
家族の支援

福祉の「壁」の撤廃

障害児（者）と家族の支援

セーフティネットの強化

介護テクノ
ロジーの活用

ステップ3

長期の成長に
大胆に投資する

介護テックへの大胆な投資

チー ム
み ら い

について

テクノロジーで
政治をかえる。
あなたと一緒に
未来をつくる。

チー ム
み ら い

テクノロジーは、^{むずか}難しい^{ぎじゅつ}技術のことじゃない。できなかったことを、
できるようにする^{ほうほう}方法のことだ。^{わたし}私たちはテクノロジーで、政治^{せいじ}
の^{とうめい}透明化・^{こうりつ}効率化を実現する。それは^{いま}今すぐできる。そしてあなた
の生活^{せいかつ}を着^{ちゃく}実に^{かいぜん}改善できる。

政治は、^{かぎ}限られた^{ひと}人のものじゃない。本来、^{ほんらい}私たち^{わたし}一人^{ひとり}ひとりの手^て
の中にあるべきものだ。^{わたし}私たちはテクノロジーで、政治とあなたの^{せいじ}
^{きより}距離を^{ちか}近くする。もっと^{きが}気軽に^{さんか}参加できる、もっと^{さんか}参加したいもの
へ^か変えていく。

未来は、^{みらい}理想を語るだけじゃ^か変えられない。できることから^{はじ}始めて
こそ、未来はつくれる。^{わたし}私たちは自分たちの手^てで、^{いま}今すぐできるこ
とから^{じっこう}実行する。あなたと一緒に^{いっしょ}一歩^{いっぽ}一歩^{いっぽ}、未来は^{みらい}明るい^{あか}と^{しん}信じら
れる^{くに}国へ。

テクノロジーで^{せいじ}政治と^{みらい}未来を^よ良くすることを^{めざ}目指す^{しんとう}新党です

^{わたし}私たちは、
^て^{うご}手を動かす。

^{げんば}^{してん}^{けんせつてき}^{かんが}
現場視点で建設的なプランを考え、
^{みずか}^て^{すばや}^{じっこう}
自らの手で素早く実行します。

^{わたし}私たちは、
^{ぶんだん}^{あお}
分断を煽らない。

^{かんじょう}
感情ではなく、データと^{じじつ}事実で^{かた}語ります。
^{ひはん}^{ていあん}^{ぶんだん}^{かいけつ}
批判より提案を。分断より解決を。

^{わたし}私たちは、
オープンにする。

^{いし}^{けってい}^{かね}^{なが}
意思決定も、お金の流れも、プロセスも。
^{どうめい}^{せいじつ}^{しんらい}^{あゆ}
透明に、誠実に、信頼とともに歩みます。

^{わたし}私たちは、
^{なにごと}^き
何事も決めつけない。

^{せいかい}
正解はひとつじゃない。^{たよう}^{こえ}^{みみ}^{かたむ}
多様な声に耳を傾け、
^よ^{こた}^{じゅうなん}^{かいぜん}
より良い答えがあれば、柔軟に改善します。

^{わたし}私たちは、
^{だれ}
誰かをおとしめない。

^た^{とう}^{せいじ}^か^{にっぽん}^{みらい}^{なかま}
他党も政治家も、日本の未来をつくる仲間。
^{きょうりよく}^{かしよ}^{さが}^{いっしょ}^{すす}
協力できる箇所を探し、一緒に進みます。

チームみらいは、パイの^{さいぶんぱい}再分配だけでなく、^{せいちょう}成長を^{めざ}目指します

マニフェストでは、3つのステップで^{せいちょう}成長を^{めざ}目指す^{せいさく}政策を^{かか}掲げています

ステップ1：

^{じだい}デジタル時代の^{あたりまえ}当たり前を^きやり切る

デジタルにおける「^{あたりまえ}当たり前」を^{じっこう}実行するだけで^{せいか}成果が^で出る「^{はっけん}のびしろ」を^{じっこう}発見し、すばやく^{じっこう}実行します。

ステップ2：

^{へんか}変化に^{たいおう}対応できる、^{しく}しなやかな^{しく}仕組みづくり

^{こうちよくてき}硬直的な^{げんざい}現在の^{ぜいせい}税制、^{きょういく}教育、^{いりよう}医療^{せいど}制度を、^へ変化に^{じんそく}迅速に^{たいおう}対応できる^{せいど}しなやかな^{さいこう}制度に^{ちく}再構築します。

ステップ3：

^{ちょうき}長期の^{せいちょう}成長に、^{だいたん}大胆に^{とうし}投資する

^{ぜん}前ステップで^{うみだ}生み出した^{よじょう}余剰^{しきん}資金を^{こそだ}子育てや^{しんさんぎょうそうしゅつ}新産業^{かがく}創出、^{ぎじゅつ}科学^{ぶんか}技術、^{しんこう}文化^{じぞく}振興に^{てき}持続的な^{とうし}投資を^{じっこう}実行します。

チーム
みらい



とうしゅ あんの 党首・安野たかひろ

1990^{ねん う}年生まれの34^{さい}歳
A I エンジニア・^{きぎょう か}起業家・S F ^{さっか}作家

2024^{ねん}年、東京都知事選に出馬。15万4638^{ひょう}票を獲得。
東京都の外郭団体「GovTech^{とうきょう と がいかくだんたい}東京」アドバイザーとして、
自治体などのデジタル化を支援。デジタル庁デジタル法制ワーキン
ググループ^{こうせいいん}構成員。

東京都^{とうきょう と う}生まれ。東京大学工学部システム創成学科^{とうきょうだいがく こうがくぶ そうせい がっか そつ}卒。
在学中、A I 研究の第一人者、松尾豊^{まつお ゆたか し}氏の研究室に所属し、機械学^{きかい がく}
習^{しゅう}を^{まな}ぶ。

ボストン・コンサルティング・グループを経て、A I スタートアッ
プ2^{しゃ}社を^{きぎょう}起業。

チームみらいとつながろう



[@anno_teammirai](#)



[@安野貴博](#)



[@team_mirai_jp](#)

ありがとうございました